

令和6年度 大田区立梅田小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年2月13日

○開校70周年 児童数978名(5月1日現在) ○学級数29学級 特別支援教室(5担任)拠点校 ○教職員数75名:校長1 副校長2 教員41名 養護教諭2 栄養士1 事務1 専門員1 都費講師6 事務補助2 副校長アシスタント1 学校講師1 学校特別補助員2 教員支援員1 読書学習司書1 学習補助員5 理科支援員2 登校支援員3 体育指導補助員2 (民託:用務員3 児童誘導員2 施設管理員3 給食5 ALT2)
○令和2～4年度 東京都教育委員会・大田区教育委員会における情報教育やICT教育の推進 ○研究財産をさらに持続的・日常的なものに発展させ、校内研究を充実化 令和6年度 校内研究主題「单元内自由進度学習の单元開発～目標に向かって自ら学び続ける児童の育成～」
○梅田の学び「うわあ～大発見!」「めざせ!○○マスター」だれとでも伝え合おう!」の推進・自主学習ノートのすすめ ○学年朝会の実施 ○「語先後礼」の励行 ○全校朝会での校歌斉唱 ○校内での俳句表彰 ○学年別音楽朝会
○体育的活動「梅田ハッピータイム」 ○読解力向上一校一取組(低学年)科学的読み物の推進 (高学年)新聞を読み、まとめることを推進。 ○読書の記録の表彰

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		回答者数10名
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A 学習する際、「タブレット端末を日常的に活用している。」と回答した児童の割合 80.8%	4: 90%以上	○タブレットの導入で、1年生から操作に慣れさせ、各教科や活動において活用している。今後も、引き続きスキルやソフトの扱い方を段階的に指導し、情報活用能力をさらに高めていく。 ○授業の終わりの振り返り活動を習慣づけて、児童自身の課題や進度に応じた意識を高め、学習の意欲の向上を目指していく。	A	2	・大項目・方向性・取組内容は正にこれから求められる力になると思うので、その育成を図ることには賛成です。それに対する具体的な取組は、タブレットの活用だけに見えてしまうので、例えば課題解決力を養う取組や体験活動、他者と協働する取組など、取組評価の要因の記載があると良いと思います。 ・タブレット端末の活用はあくまでも学習の補助としての位置付けとし、自分で考える力、それをノートにまとめる力を理解させることが必要と考える。 ・タブレットに日常活用とは、動画見るなど学習からかけ離れていませんか。操作に慣れるためには、娯楽的なことも必要と考えますが、それだけになっていませんか。 タブレットに頼りすぎて、「本物」を知る機会が薄れていないですか。 ・情報リテラシーやデジタル市民権など基本的な事については、継続的に教えてあげてほしい。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	72.9%	3: 80%以上				
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 70%以上							
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
						1: 60%未満				
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る材国 を際 育都 成市 しま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A 友達と仲良くしている。 96.1%	4: 90%以上	○人間関係形成能力を高めるため、コミュニケーションの仕方を、随時、すべての教育活動において、各教科等、道徳、特別活動内で指導し、より良い生活が送れるようにしていく。 ○各教科等や特別活動において、協働的な学びの機会を設け、他者と共に学ぶことの良さを味合わせるとともに、自らの課題解決ができるようにしていく。	A	7	・高学年の児童には、コンフリクトマネジメント等、意見の違いを建設的に解決する方法がある事を教えてあげてほしい。 ・学校内外で開催される行事等に積極的にかつ能動的に活動することにより、コミュニケーション能力が養われるようにしてほしい。 ・目標に対する成果指標が、AとBだけでは足りない気がしました。英語・伝統文化・国際・地球等をキーワードに児童に質問することで、児童が考えるきっかけづくりになるかもしれません。 ・世界に羽ばたく人材が馬込から出ることを期待しております。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	86.0%	3: 80%以上				
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 70%以上							
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
						1: 60%未満				
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 力成 をを し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A授業の内容をおおむね理解している。 92.0%	4: 90%以上	○道徳の授業や特別活動を中心に、継続的に公共心、規範意識等を醸成する機会を設け、豊かな心を育むような取組を継続して行う。 ○算数少人数の習熟度別の学習において、児童の理解や定着度に合わせた授業の工夫を行い、個に応じた分かりやすい授業を実施していく。 ○児童の心身の健やかな成長と健康保持の意識を高めるために、体育、保健指導、食育を中心に、けがや病気の予防、より良い生活習慣の確立を目指していく。	A	5	・「学校が楽しい」と話す児童が多い。 ・ルールを守って友達と過ごせる学校であって欲しいと願います。先生方に感謝しています。 ・児童一人一人が各自の目標を設定し、継続的に努力させることにより、個性的な人間に育てあげてほしい。 ・目標に対する成果指標が、もう少し具体的にならないと、これまでの取組の良い点や改善策が見えてこない。 ・小学生では、礼儀正しさを見る機会が多いものの、大人になるにしたがって薄れていくように感じます。「身に付いている」とはいい難いように感じます。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3: 80%以上				
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 70%以上							
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		1: 60%未満							
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・学校公開時の保護者アンケートにおける肯定的授業評価の割合 80.2%	4: 90%以上	○教員は、年2回以上の授業観察を通して授業改善を行い、自身の授業スキルの向上を目指していく。また、児童による振り返りや学校公開等のアンケート等で、客観的な視点から、日々の授業改善に生かしていく。 ○校内研究において、全ての教員が各教科等における単元内の自由進度学習を展開し実践することで、個の課題や進度に応じた学びを保てるようにしていく。かつ、他者等との対話的な学習を通して、より学習内容を深め意欲の向上を図れるようにしていく。 ○会議の精選や行事等の見直し等を、随時実施し余裕をもって児童と関われるよう校務改善を図っていく。	A	3	・周年行事等での先生方の楽しそうな姿を拝見し、梅田小の先生方の組織力を垣間見た気がします。先生方にとっても魅力的な職場となるようPTAとしてもサポートできればと考えています。 ・やるべき仕事が多い教員の負担を軽くすることに留意し、教員の研究・研修時間を捻出することにより、教育内容の改善に生かすよう希望する。 ・保護者アンケートの中で、否定的な評価の中でも、改善につなげるべき意見があれば、それを実際に改善実行すること。それがアンケートに大きな意味を持たせることができ、保護者とのコミュニケーションや信頼につながると思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		B		6		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		C		0		
						D		0		
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・「自分にはよいところがある。」と回答した児童の割合 87.3%	4: 90%以上	○日常的に児童の観察や児童理解を深め、学校生活に困難さを感じている児童に対し、特性等を早期発見できるようにしている。また、スクールカウンセラーの活用や保護者への働きかけを通して、児童にとってより学習や生活がしやすくなるよう、特別支援教室や外部機関と円滑な連携が取れるように校内体制を整えておく。 ○主に道徳や学級活動において、人権教育を推進し児童間のトラブル等の早期発見と解決に努める。いじめにつながりそうな事案については、週1回教員全体で情報を共有し、未然防止の徹底と早期対応を図り速やかに解決に導く。 ○児童の自己肯定感を高めるために、学級及び各教科の授業等において児童理解に根ざした指導や対応を心がける。	A	3	・全ての児童が自己肯定感をもった上で他者を思いやる心をもち行動できることを願っています。 ・自己肯定感の育成は、インクルーシブ教育の中でも最も重要な因子であると考えます。 全ての児童が「学校が楽しい」と思えるようPTAとしても、先生方のサポートができればと考えています。 ・何かの才能をもっていたり見つけられた子は、それをさらに伸ばす環境が整えられているように思います。そうでない子との差があり、その差を感じさせていることではないでしょうか。 ・個々の個性を伸ばすこと、沢山の児童に対してとても大変だと思いますが、よろしく願います。 ・児童数の多い学校であるため、先生の目に留まらない事項も多くあると思うが、学習環境や活動状況を観察し、早期に問題を発見し、かつ先生方の間で共有することにより、解決を図ってほしい。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3		B		6		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		C		0		
						D		0		
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 び 空 間 ま と ま す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合 82.4%	4: 90%以上	○校舎内外の日常点検を心掛け、月1回等の点検の際に施設の綻び等を、区への報告と共に速やかに修繕を図っている。また、豊かな自然環境を残しつつ、児童が安心して学習できるようなビオトープや樹木等の維持管理を細目に行っている。 ○月1回の、様々なケースの災害(地震・火災・水害)等を想定した避難訓練を実施し、都度、避難経路の確認や児童の危機管理意識の醸成のため、反省を基に安全指導を実施している。	A	4	・学校内外の設備・環境の日常点検を細目に行い、不備の補修を速やかに行い、より良い学習環境の維持に努めてほしい。 ・広い校庭ですが、児童数に対して十分なのでしょうか。 ・PTAでは、通学路の危険箇所の調査に協力させていただいておりますが、児童の目線ではないため、低学年児童と保護者による調査イベントなど、PTAで企画してもよいのではと考えています。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		B		6		
						C		0		
						D		0		
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合 80.2%	4: 90%以上	○年4回の地域教育連絡協議会や学校支援地域本部等と連携して、児童の安全・安心の見守り、学校行事の補助、校内の清掃や美化等の支援をしてもらっている。夏休みのわくわくスクールの企画・運営等も尽力していただき、児童の校外における活動を充実させている。 今後は、さらに組織的な活動になれるよう、令和8年度にCSを立ち上げるために様々な情報収集等の準備をしていく。	A	4	・地域に学校側からのご要望を伺いたいと思います。 ・児童・保護者には地域行事に積極的に参加させてほしい。 ・スクールサポートとの協力関係を深め、学校の特色に合ったCS活動へと進んでほしい。 ・今後は、より多くの地域、住民(特に多くの保護者)が皆で力を合わせて、こどもたちが学ぶ学校を支える仕組みづくりが求められると考えます。(子育て世代は多忙であるから) ・PTA企画のイベントでは、保護者や地域を巻き込み、CS立ち上げに少しでも協力できればと考えています。 ・地教連の資料等で、町会の並びや役職などきちんと立場を明確にした、記載等をしてほしい。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		B		5		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		C		0		
						D		1		
										※頂いたコメントの文章は、一部表等を変更させていただきます。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。